

ラザルニ人血ナリト鑑定シテ罪ナキ人ヲシテ無實ノ罪ニ陷シル、ガ如キコトナカラシメタイモノト思ヒマス。之ハ又臨床上ニ應用スレバ、潜在出血ヲ見テ、其ノ出血ノ肉類等ノ食物ニ含有セラレタル血液ナリヤ、患者自身ヨリ出デタル患者ノ血液ナリヤヲ判定スル事が出來ル様ニナル事ト思ヒマス。

演 說

(第三會場)

「フリクテン」ト結核トノ關係

平 林 重 兵 衛

「フリクテン」ノ原因ハ未ダ明カナラズ。全身の或ハ局所的ノ種々ノ説行ハレ諸説紛々トシテ其ノ歸スル所ヲ知ラザレドモ、ソガ臨床上ノ症狀ヨリシテ内發的ナルコトハ多クノ人ノ首肯スル所ナリ。頃者「フリクテン」ト結核トノ間ニ密接ノ關係アリトシテ諸家ノ注意ヲ引ク、余亦兩者間ノ疑義ヲ鮮明ニセント欲シ、内科的檢診ビルク氏反應ト相俟テ胸部「レントゲン」線所見ヲ參照シ其ノ解決ヲ試ミタリ。其ノ蒐ムル所僅カニ三十例ニ過ギザレドモ右症例中「ビ」反應陰性ノモノニ例、X線所見ノ陰性ト認ム可キモノ三例ノミナリキ。

尙余ハ反復再發スルモノニ對シテハ無蛋白「ツヘルクリン」ヲ注射シ其ノ再發ヲ停止セシメ得タル多クノ症例ヲ有スルヲ以テ頑強ニ再發スルモノハ大抵結核性ナルヲ信ズルモノナリ、而シテ其ノ治療法トシテ從來ノ方法ニ兼ネ「ツベルクリン」殊ニ反應ノ少ナキ無蛋白「ツベルクリン」ヲ增量注射スルコトヲ推稱スル次第ナリ。

骨結核ノ療法ニ就テ

骨ノ慢性炎症中最モ臨床家ヲ苦シメルモノハ骨結核デアリマス。コレノ治療法ニハ從來色々アリマスガ、骨結核患者ノ四〇—七五%ハ他臟器ノ結核症ヲ合併シテ居リマスカラ、ソノ療法トシテモ只局部的ノミデナク全身のニモ行ハネバナラスコトハ論ズル迄モナイコトデアリマス。

局所的療法中非觀血の療法ニハボンセイ、キツシユ氏等ノ日光溫療法イセリン氏等ノ「レントゲン」線放射療法、ビール、キツシユ氏等ノ鬱血療法等色々アリマスガ、是等ノ人々が好成績ヲ得タト云ツテ居ルニ拘ラズ他ノ臨床家ハ反對ノ結果ヲ發表シテ居リマス。

次ニ觀血の療法デアリマスガ、コレニハ姑息の手術法及ビ侵サレタ骨ノ切除或ハ骨ノ全剔出ヲ行フ法トガアリマス。從來多クノ場合ハ切除又ハ全剔出ガ行ハレテ居ル様デアリマス。

ボルハルド氏ハ非觀血の療法ヲ約六ヶ月間行ヒ、ソレデ輕快スル模様ノナイ時ハ初メテ手術的療法ヲ行フベシト言テツ居ルガ、カ、ル長イ日數ト多クノ費用ヲ要スル療法ハ富裕ニシテ忍耐力ノ強イ患者ニ初メテ試ミ得ラレルモノデ我々ノ外來ヲ訪フ殆ド總テノ患者ニ適用シ得ナイコトデアリマス。故ニ我々ハ骨結核症ニ對シテハ治療機能廢滅ヲ來サナイデ治療期間ヲ出來ル丈ケ短縮出來ル様ナ處置ヲ施スコトニ努力シテ居リマス。

即チ我々泉外科ニ於キマシテハ先ヅ患部ノ「レントゲン」寫眞ヲトリ豫メ骨病竈ノ範圍ヲ知リ骨全經ガ侵サレテ居ナイ限リハ患部皮膚ヲ廣ク開キ必要アル時ハ骨質ヲ鑿開シテ病竈ニ達シ全病竈ヲ健康骨部ニ達スルマデ完全ニ搔破除去シ然ル後「ヨードホルム」末ヲ入レ小創口ヲ殘シ或ハ殘サズシテ全皮膚縫合ヲ行ヒマス、ソシテ治療法トシテ術後三四週間ヲ經過シタ後第一回ノ「レントゲン」線放射ヲ行ヒマス、コレハ當院「レントゲン」科ニ依頼シテ硬度ハ「ウエーネルト」一〇—一一度壓力ハ二ミリアムベアー、四ミリノアルミニウムフィルターヲ用ヒ距離ハ二三浬デ放射ヲ行ツテ戴キ

マス。

コノ放射ハ一週一回宛數週行ツテ居マス。

尙創口ガ縮小スルヲ待ツテ患部ノ安靜ト負擔ヲ輕減スル目的ヲ以テ「ギプス」繃帶ヲ行ヒマス。

ソシテ結核ノ一般療法トシテ最モ必要デアル新鮮ナ空氣、日光、營養高上ノ目的ノタメニ創腔出血ヲ認メナイ様ニナル時ハ適當ナ支持器ヲ與ヘ努メテ歩行散歩ヲ行ハシ、尙内服藥トシテ重ニ肝油乳劑ヲ與ヘテ居リマス。

コノ様ナ原則ヲ以テ處置シマシタ患者ハ平均一ヶ月半—二ヶ月デ創腔ハ非常ニ淺クナリ分泌物モ只組織液ガ少量丈ケトナリマス、患者ガ少壯デアレバアルホド非常ニ全經過ガ短縮シマス。

デアリマスカラ從來多ク行ハレテ居ル病骨切除又ハ一骨全剔出ヲ行フ時ハ經過ハ短縮サレルケレドモ畸形ヲ殘シ機能廢滅乃至ハ機能不全ヲ來シマスカラ、ソレ以前ニ應此ノ療法ヲ施シ然ル後ソノ經過ヲ見テ適當ナ處置ヲ施シテモ決シテ遅クハナイト思ヒマス。

患者ガ少壯デアル場合ニハ特ニソノ必要ヲ痛切ニ感ジマス。

次ニ骨結核ニヨツテ來ル寒性膿瘍ノ處置ニ就テ申上ゲ度イノデアリマス。我々ノ教室ニ於テモコノ療法ニハ從來ハ一般ニ行ハレテ居ル如ク膿瘍ノ周邊部ニ於テ健康皮膚部ヨリ斜ニ注射針ヲ刺シ入レ膿腔ニ達シ排膿シタ後一〇%「ヨードホルム」グリツエリン」ヲ注入シテ居リマシタガ、コノ混合液デハ御承知ノ如ク非常ニ沈澱シ易ク注射器デ既ニ沈澱スル様ナ時ガアリマスカラ、コレデハ膿瘍内ニ注入シテモ全般ニ「ヨードホルム」ガ行キ渡ルト云フコトハ到底望ミ得ラレヌコト、思ハネバナリマセン。

依ツテ色々コレニ優ル混合液ヲ考ヘタ結果我教室デハ二〇%「ヨードホルム」グリツエリン」中ニ二%ノ割ニ「アラビヤゴム」末ヲ加ヘコレヲ大人一回量五—一〇ccヲ注入致シマシテ混合液ハ乳劑デアリマスカラ「ヨードホルム」ノ沈澱ヲ防グコトガ出來マス。

今コノ兩混合液ノ効力ヲ比較シ得タ一例ニ就テ申シマスニ患者ハ二十歳ノ女デ腰椎上部ノ結核性脊椎炎ガアリ左側腸骨窩ニ約手拳大ノ膿瘍ヲ有シテ居タノデアリマシテ「ヨードホルムグリツエリン」ヲ注入シテ居ル時ハ常ニ百五十程ノ排膿ヲシテ居ツタモノガ「ヨードホルムアラビヤゴム」ヲ用フル様ニナツテカラ次回ノ穿刺ノ時ハ一〇〇cc、三回目ニハ五〇ccト減量シ膿瘍モ次第二縮小シテ來マシタ。近來ハ常ニコノ「アラビヤゴム末ヲ入レタ」ヨードホルム「混合液」ヲ使用シテ居リマスガ、何レモ以前ヨリ良好ナ成績ヲ得テ居リマス。コレハ注入サレタ「ヨードホルム」ガ膿腔内デ沈澱スルコトナク全般ニ行キ渡ルカラダト思ヒマス。

「レントゲン寫眞供覽」

診斷 右第一蹠骨結核

手術日 大正十三年九月二日 入院中今日マデ四十五日。

手術法 繫開搔破

術後第八日 ギプス繃帶、 ギプス繃帶一回換フ。

同 第二十八日 第一回 線放射、 今日マデ三回放射。

兄弟ニ發生セル顔面播種狀粟粒性狼瘡

村 田 均

本症ハ一八七八年英ノブリーフォックス氏始メテ記載セル稀有症ニシテ、我が國ニ於テハ當大學士肥博士ニヨリ始メテ發見記載セラレシヨリ四十餘例ヲ算ス。

余ハ曩ニ本症患者ヲ診スルニ當リ弟ニ同様ノ疾患アリトノ陳述ニヨリ來診ラス、メ就テ診スルニ果シテ兄弟同一ノ疾患ヲ有スルコトヲ知リテ次ノ二例ヲ報告ス、詳細ハ追テ報告スベシ。